令和６年度 第３回

「家族のきずな」

エッセイ集

今治地域モラロジー連絡会議

今治モラロジー事務所　今治南モラロジー事務所

後援：今治市／今治市教育委員会／今治市PTA連合会／公益財団法人 モラロジー道徳教育財団／愛媛県モラロジー協議会

令和６年度 第３回

「家族のきずな」エッセイ集

目 次

2 発刊に寄せて　今治市教育委員会 教育長　小澤　和樹

3 ご応募いただいた小・中学校

4 入賞・入選作品一覧

6 特別賞作品

11 優秀賞作品

19 優良賞作品

「人づくり」による「国づくり」を

モラロジー教育では「３つの心」を育てます。

「思いやりの心」

相手の立場に立って考えることのできる思いやりの心は、人の喜びや悲しみ・痛みへの共感性をはぐくみます。そして、自分を反省したり、相手を許す謙虚さや周囲に奉仕する深いやさしさを育てます。

「感謝の心」

大自然の恵み、また家庭や国の恩恵などに対する感謝や心は、自分の命はもちろん、あらゆる命を大切にする尊厳性をはぐくみます。そして、恩返しをしたり社会や世界に貢献していく勇気を育てます。

「自立の心」

夢や志に向かって、主体性を持って生きようとする自立の心は、家庭人、社会人、また国民としての責任感や使命感をはぐくみます。そして、地域や国際社会に目を向けていくたくましさを育てます。

モラロジーとは

モラロジー（moralogy）は、「道徳」を表すモラル（moral）と「学」を表すロジー（logy）からなる学術名で、「道徳科学」を意味します。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした科学「総合人間学」です。

公益財団法人モラロジー道徳教育財団

モラロジー道徳教育財団は、倫理道徳の研究と社会教育を推進する研究教育団体です。大正15（1926）年の創立以来、「道徳で人と社会を幸せに」という指針のもと社会における諸課題の道徳的解決に資する研究・教育・出版・福祉事業を展開しています。また、日常の活動を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて取り組んでいます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

発刊に寄せて

今治市教育委員会 教育長 小澤和樹

『家族の愛が未来へつながる』

今年も、家族の温かい触れ合いや感謝の気持ちが詰まった「家族のきずな」エッセイ集が出来上がりました。発刊にご尽力いただきました今治地域モラロジー連絡会議の皆さまに感謝申し上げます。

小・中学生の皆さんから寄せられた家族愛にあふれたエッセイには、家族に対する優しさや感謝の気持ちが率直に表現されていて、多くの読者に感動とぬくもりを与えてくれます。

空を押し上げて　手を伸ばす君　五月のこと
どうか来てほしい　水際まで来てほしい
つぼみをあげよう　庭のハナミズキ
薄紅色の可愛いきみのね　果てない夢がちゃんと終わりますように
君と好きな人が百年続きますように～♪

この詩は、「ハナミズキ」という曲の一番です。この歌詞には、子どもが生まれたときに感じた喜びや、その子の永遠に続く平和への祈りや、大切な人の幸せを願う大きな愛情が込められています。

今世界では、紛争による犠牲者が増え続けています。さらに、その復讐で誰かがまた誰かを傷つける波が広がっています。この負の連鎖が止まないと平和は訪れません。我が子に平和な世の中で幸せに暮らしてほしいと願う親の気持ちは万国共通であり、不変であります。

「僕の我慢がいつか実を結び　果てない波がちゃんと止まりますように
君と好きな人が百年続きますように～♪」

世の中が思いやりで満たせたら……という思いでこの曲の最後が締めくくられています。

ハナミズキには、ゆっくりと育ち、逆境にも負けず可愛らしい花を咲かせるイメージから「逆境にも耐える愛」という花言葉があります。

この歌詞のように、思いやりで世の中が満たせたら、未来は平和で優しさに包まれるでしょう。そして、愛情を受けた子どもたちは、人のぬくもりや心の触れ合いを支えにしながら人生を力強く生きていくことでしょう。

これからも、このエッセイ集が、温かい言葉に包まれ、その思いや言葉が、未来へとつながっていくことを願っています。また、子どもたちの家族を思いやる優しさや感謝を伝える場として、益々発展されていくことを心から祈念いたしまして、発刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

ご応募いただいた小・中学校

小学校

今治市立　亀岡小学校　菊間小学校
大西小学校　清水小学校
鴨部小学校　近見小学校
波方小学校　乃万小学校
桜井小学校

中学校

今治市立　立花中学校　菊間中学校
南中学校　朝倉中学校
近見中学校　大西中学校
玉川中学校
今治明徳中学校

エッセイ応募総数　106点　応募学校総数　17校

※順不同

令和6年度 第3回『家族のきずな』エッセイ

入賞・入選作品一覧

今治市長賞

ただいま

今治明徳中学校　3年　吉田壮佑（よしだ そうすけ）

今治市教育委員会　教育長賞

いつか「ゆうちゃん」の代わりになれたら

今治市立大西中学校　3年　末竹仁那（すえたけ にな）

今治市PTA連合会　会長賞

また会いにいくよ

今治市立乃万小学校　5年　八木悟史（やぎ さとし）

公益財団法人モラロジー道徳教育財団　理事長賞

家族のせなか

今治市立鴨部小学校　4年　石川央都（いしかわ おと）

愛媛県モラロジー協議会　会長賞

わたしの兄弟

今治市立近見小学校　2年　大野心優（おおの みや）

◇優秀賞

おなじ気もちの大切な人	清水小学校　3年	片山心結
小さくなったひいばあちゃん	清水小学校　4年	渡部結椛
ぼくのじいじ	乃万小学校　1年	たききた　そら
祖母の背中	立花中学校　2年	藤原勇樹
桜という名の架け橋	今治明徳中学校　3年	田中芙葉
家族との思い出	今治明徳中学校　1年	辻　愛依梨

帰ってくる日	今治明徳中学校　2年	平田万桜
言葉ではない優しさ	今治明徳中学校　2年	小野香菜美
背中を押す父の声	朝倉中学校　3年	清水杏
母のお弁当	大西中学校　3年	藤川真帆
旅立った姉	大西中学校　3年	田中礼菜

◇優良賞

しっぱい	亀岡小学校　1年	白石剛琉
私の家	亀岡小学校　4年	長野衣杜
私の大好きなひいばあちゃん	亀岡小学校　5年	菅　里緒
無事に帰ってこれますように	大西小学校　6年	檜垣陽翔
弟がおとまりほいくの時	清水小学校　2年	落合幸菜
ぼくとばあちゃん	近見小学校　4年	大野颯晴
私の家族のきずな	乃万小学校　4年	﨑田巴菜
家族のためにがまん	乃万小学校　6年	横山千尋
双子の姉	桜井小学校　5年	一色彩花
弟の誕生	桜井小学校　6年	髙橋莉琉
曾祖母の『教え』	立花中学校　2年	山口凛音
姉妹の存在	菊間中学校　2年	成松心羽
私がお姉ちゃん!?	今治明徳中学校　1年	小林かのん
僕のアイボウ	今治明徳中学校　1年	玉井良昌
響く一言	今治明徳中学校　3年	渡部瑛大
母は偉大だ	今治明徳中学校　3年	近藤沙紀
感謝	近見中学校　2年	福羅瑛一
家族での時間	近見中学校　1年	壷内咲奈
母の日	大西中学校　3年	香月瞳伶
家族の要おばあちゃん	玉川中学校　1年	浮穴優之介
私の大好きな祖父母	玉川中学校　1年	武田乃愛
家族の「おかえり」	玉川中学校　1年	鴨川瑞歩

今治市長賞

ただいま

今治明徳中学校　三年　吉田（よしだ）　壮佑（そうすけ）

「ただいま。」

月に一度、玄関から父の声が聞こえる。母は喜んで玄関に向かうが、僕は嬉しいが、少し照れくさいので平常心を保ち、「おかえり。」と素っ気ない態度をとる。

父が単身赴任して、二年過ぎたが、父が居ない家は寂しいし、慣れることはない。母が忙しく過ごしているのを見て、風呂洗いや戸締りは僕の役割になった。

今日も、父は家族のために頑張って働いてくれている。きっと僕が父を心配する以上に父も僕や家族のことを心配しているだろう。父と離れて気づいたことがある。それは、家族の大切さだ。そろって食事ができること、顔を見て話ができること。家族と過ごせるあたり前のことに、感謝の気持ちをもてるようになった。この気持ちを大切にして、僕も今、目の前にあることを一生懸命しようと思う。来月の父の「ただいま」を心待ちにしながら。

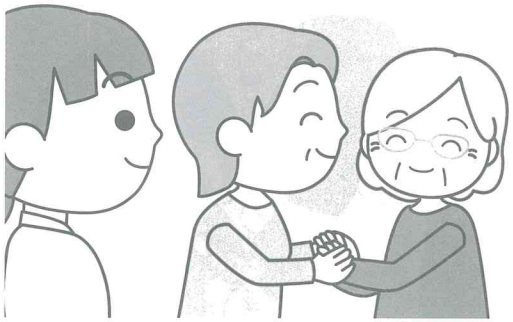
今治市教育委員会　教育長賞

いつか、「ゆうちゃん」の代わりになれたら

大西中学校　三年　末竹（すえたけ）　仁那（にな）

「ゆうちゃん」、そう呼ぶのは私のそう祖母。「はいはい」と走っていくのは祖母だ。そう祖母は一人暮らしをやめ、中島から引っ越してきたが、近頃は横になっていることが多くなってしまった。だから自分じゃできないことがあると「ゆうちゃん」と祖母を呼ぶのだ。「ゆうちゃん」は二人の信頼の証だ。

ある日いつものように「ゆうちゃん」と声がした。「ここへ来て」と小さな寂しそうな声だった。夕飯づくりで忙しい祖母をそう祖母は不安そうに待っていた。「私、行くよ」と祖母に言い、そう祖母の横にちょこんと座った。そう祖母は言葉につまりながら、「何もできんくなってね、ごめんね」とそれだけ言った。その一言にそう祖母の精一杯のごめんねとありがとうと不安がこもっていた。「大丈夫だよ」としか言えなかった。その一言に精一杯の愛情と優しさをこめた。迷子の子供のような顔をするそう祖母の手をそっと握りしめた。



今治市PTA連合会　会長賞

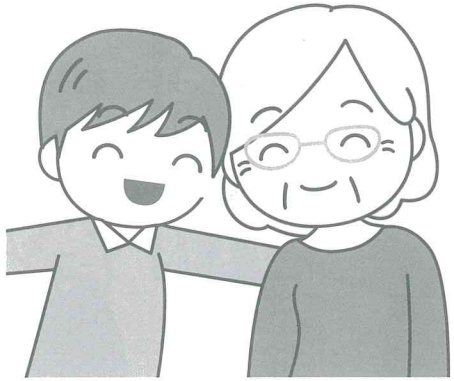
また会いにいくよ

乃万小学校　五年　八木（やぎ）　悟史（さとし）

ひいばぁちゃんは九十三才。すごくやさしくて元気だった。遊びに行くと、ホットケーキをやいてくれた。暑くないか、寒くないか、いつも気にしてくれた。帰る時にはハイタッチをして、見えなくなるまで見送ってくれた。毎日自分でごはんを作って、一人で暮らしてた。日記も欠かさず書いていた。

そんなひいばぁちゃん、急に元気がなくなった。手が動きにくくなって、日記もお料理もできなくなった。立ったり、歩いたりがむずかしくなった。そしてそんな自分におこっているみたいだった。

今はしせつに入っているひいおばぁちゃん。色んなことをわすれてるみたい。でもぼくやお姉ちゃんたちを見て泣いていた。自分でできなくてもいいよ。やり方をわすれてもいいよ。だけど、ぼくたちのことはわすれないでほしいな。また会いにいくよ。



公益財団法人モラロジー道徳教育財団　理事長賞

家族のせなか

鴨部小学校　四年　石川（いしかわ）　央都（おと）

水泳部も終わり、わたしの夏休みが本かく的に始まった。いつもなら小学生のわたしが一番に家を出る。でも、今は夏休み。わたしの朝はだれよりものんびりしている。

一番バタバタしているのは、やっぱりお母さん。夏休みの方がいそがしそう。お父さんも朝ご飯を食べたらすぐに仕事に行く。姉ちゃんも課外と部活があるのですぐに出る。つづいて兄ちゃんも部活に行った。残ったのはわたしとお母さんだけ。お母さんと二人でゆっくり話そうと思っていたのに、お母さんはやる事がいっぱいで落ち着かない。

気がつくとお母さんまで仕事に行った。家族四人のせなかを見送ってわたしはたのまれた家事をする。そうじ、せんたく、昼食じゅんび。ダラダラすごすひまもなかった。一人ですごす家はさみしかった。お母さんはいつもこれを一人でやっているのかな。

みんなが帰って来て笑顔になれるように、夏休みの間だけでもわたしがんばるぞ！

特別賞

愛媛県モラロジー協議会　会長賞

わたしの兄弟

近見小学校　二年　大野（おおの）　心優（みや）

わたしには、四つ上のお姉ちゃんと二つ上のお兄ちゃんがいます。二人は、わたしのライバルです。いつもお母さんのとり合いをするからです。二人が楽しそうにお母さんと話していると、わたしもまけずに大きな声でお母さんに話しかけます。おかいものに行くとだれがお母さんと手をつなぐかけんかになります。お母さんの手は二本しかないので、みんなひっしです。お母さんを一人じめできる時は、うれしい気もちになります。

でもやっぱり、お姉ちゃんとお兄ちゃんがいないと、なんだかさみしい気もちになります。お姉ちゃんは、いつもおべんきょうやピアノをおしえてくれます。お兄ちゃんは、いつもあそんでくれます。けんかもいっぱいするけど、三人でいるととても楽しいです。まだまだお母さんはゆずれないけど、これからもなかよしな兄弟でいたいです。

優秀賞

おなじ気もちの大切な人

清水小学校　三年　片山（かたやま）　心結（こゆる）

わたしには大すきな人がいます。その人はやさしく、おも白く、時どきこわい人です。

七月のカレンダーに、こゆるのたん生日と書いたら次の日、ママの大切な日と書いてくれていた。うれしくてにやけた。ママは、いそがしくて時間がないときによくおこる。そんな時、わがままを言ってしまいケンカになる。わかっているのにす直にあやまれない。ママの顔もこわい。少しするとママは、ごめんと言わないけど、いつも通りになり、かならず「すねたらそんよ。気もちのきりかえせな。」と言う。この言葉はケンカい外でもわたしの力になっている。平泳ぎができず気もちがしずんだ時おうえんしてくれて気もちを切りかえすると泳げるようになった。やったぁとよろこぶとママもよろこんでいた。

わたしが悲しむとママも悲しみ、がんばるとママもがんばっておうえんしてくれている。いつも近くで同じ気もちになってくれていることに気がついた。ママいつもありがとう。

小さくなったひいばあちゃん

清水小学校　四年　渡部（わたなべ）　結椛（ゆいか）

私には、九十四歳になる元気いっぱいのひいばあちゃんがいる。お正月に会いに行こうと思っていたのに、二年連続家族でコロナに感染してしまい会いに行くことが出来なかった。今年の二月にやっと家族で会いに行った。「ひいばあちゃん来たよ。」と玄関を開け声をかけると「よお来たなぁ」とニコニコ笑顔のひいばあちゃんが出迎えてくれた。

私は、ひいばあちゃんに会えたうれしさもあったが、並んだ時に体が小さくなっちゃったと心配にもなった。私は、お母さんの肩をポンとたたいて、聞いてみた。するとお母さんは笑いだしてこう言った。「それは、ひいばあちゃんが小さくなったんじゃなくて、ゆいかが大きくなったのよ。」と言った。

二年会わない間に私は自分でもびっくりするくらいせがのびていたんだと思った。みんなで写真をとっているとぎゅっとひいばあちゃんがだきついてきて少し恥ずかしさもあったけどこれからも長生きしてねと心から思った。

ぼくのじいじ

乃万小学校　一年　たきぎた　そら

ぼくのじいじは、ぼくがうまれるよりずっとまえに、てんごくにいきました。

だからぼくはじいじにあったことがありません。だけど、かおはしっています。

ばあばのいえにわらったかおのじいじのしゃしんがかざってあります。

ばあばいえにいったらかならずぶつだんにてをあわせて「じいじきたよ」とおはなしをします。

ぱぱもままもおにいちゃんもおなじようにします。じいじのこえはきこえないけど、ばあばが「きょうもじいじがよろこんでるよ」

とうれしそうにしています。

ばあばがそういうので、ぼくもうれしいきもちになります。もしあえたらいっしょにサッカーがしたいです。

だいすきなじいじ、これからもおそらからずっとみまもってね。

祖母の背中

立花中学校　二年　藤原（ふじわら）　勇樹（ゆうき）

年長さんだったぼくは、その日、祖母の自転車の後ろに乗っていた。「お魚を見に行こうか。」そう言うと、祖母は大きな川のそばに自転車を止めた。梅雨の晴れ間の土手は草が茂りはじめていた。祖母は僕の方なんか見ずにどんどん河原へおりて行く。ぼくもその後を追いかけ草を踏みしめながらおりて行く。橋の下では、ザーザーと勢いよく流れる川の音がはねかえって響いていた。「めだかがおるね。つかまえてみよう。」祖母は虫取り用のアミで器用にめだかをすくった。そして、跳び越えながら向こう岸に渡ってしまった。少しだけ怖かったけれど、ぼくも勢いをつけて石から石へとジャンプした。祖母はぼくを丸ごと信じているから、いちいち大丈夫かなんて聞かないのだ。

年を取って祖母は家族のことを忘れてしまった。次に会ったら川で遊んでいた時のことを、もう一度話してみよう。

優秀賞

桜という名の架け橋

今治明徳中学校　三年　田中（たなか）　芙葉（ふよう）

二年前の春、私が中学校へ入学する一週間前に祖父は病気のために天国へ旅立った。入学式当日は新しい未来へ踏み出す私を何かが後ろから励ますように桜が満開だった。

私はいわゆるおじいちゃんっ子で、祖父が隣にいることが当たり前だと考えていた。そんな祖父は私に人生の糧となる沢山のことを教えてくれた。最期には私に「死」というものを教えてくれた存在でもあった。

「桜」は祖父の名前に含まれている。だから、私にとっての桜は誰よりも尊く、価値が高いものだ。春になり、舞い散る桜を手に取り空へ掲げると思い出すのはやはり祖父である。新学期がんばってねと応援する祖父の声がどこからか聞こえている気がする。

このように私と祖父の間にはいつも桜があって、そこで私が思ったことは「桜」は私たち二人を繋ぐように存在しているのだと。

家族との思い出

今治明徳中学校　一年　辻（つじ）　愛依梨（あいり）

私の家庭では、毎年誕生日の人にメッセージカードを渡しています。そして誕生日の人のやりたいことを叶えようと一生懸命準備や計画を立てます。たった一枚のメッセージカードですが、家族みんなで感謝や生まれてきてくれてありがとうの気持ちをつづる大切なカードです。普段はそれぞれの都合で家族で思い出をつくることが難しい中で、家族で祝賀する大切な日です。この一年、元気で成長した姿を感じ合う日です。だから普段は恥ずかしくて言えないほめ言葉や「ありがとう」もしっかり伝えます。

ケンカすることも対立することもあるけれど、いつも私を支えてくれる家族がいて本当に幸せです。年四回の誕生会は家族と過ごす日常の中でも大切な時間です。これからも、誕生会を通してかけがえのない家族との思い出をつくっていきたいです。

帰ってくる日

今治明徳中学校　二年　平田（ひらた）　万桜（まお）

お盆。私は今までお盆と聞いたら親せきで集まったり家族で出かけたりする、というイメージしかなかった。しかし今年の一月に大好きだった祖母が亡くなって、初めていつもと違うお盆を過ごした。毎年は親せきが大集合して何家族もいる中だが、今年は祖母の姉妹と祖父、母ら姉妹と孫たちのみ。孫が私含め九人いるため少ない人数とは言えないが、お寺に行ったり墓参りした後のため皆静かだった。すると祖父が、

「今お母さん帰って来とんやけん、ちゃんと皆いつも通り騒いどかな心配するよ。」

と言った。それから皆、まるで祖母にも報告しているかのように近況について話しだした。

やはりさびしい気持ちがあるけれどお盆は亡くなった人が帰ってくる大切な日だ。来年また帰ってきてくれた時に報告できるように色んな事に挑戦してがんばっていこうと思う。

言葉ではない優しさ

今治明徳中学校　二年　小野（おの）　香菜美（かなみ）

私は剣道をしている。試合には、いつも母が観に来てくれる。お仕事や家の事もあるのに本当にありがとうと思う。

県大会に初めて団体で出場したとき、私が二本負けをしてしまいチームが負けてしまった。悔しかった。泣いた。そんなとき、母はなにも言わず側にいてくれた。なにもいわないけれどその優しさが伝わってきてとても安心した。母を見ると笑いかけてくれた。その笑顔が大丈夫。次、がんばればいい。そう言ってくれているようだった。母のその言葉ではない優しさがとてもうれしく、勇気をもらえた。

次の試合では、勝って母を喜ばせたい。いつも応援してくれている母に感謝を伝えたい。

「お母さん、ありがとう。次の試合では勝つからね。見ていてね。」

背中を押す父の声

朝倉中学校　三年　清水（しみず）　杏（あん）

「ありがとう。助かったよ。」と言えばよかったかな？と思いながら車のドアを閉める。「いってらっしゃい」父の声を背中で聞く。朝起きるのが苦手な私は毎日決まった時間に起きられない。目標の起床時間は六時。しかし、悪くすると七時になることがある。家から学校まで自転車で片道十五分。自分のペースで登校準備をすれば三十分は必要だ。この三十分が確保できなくて、大抵の日は朝からバタバタになってしまう。

「乗せていくぞ。」と父の優しい声ですまない気持ちとやったぁ！という気持ちが入り交じる。急いで支度をして、車に乗り込む。朝は気分がダウンしているので無言のことが多い。一日の学校の流れをイメージし、自分の予定を立てる。車はあっというまに校門に到着する。十分に感謝の気持ちを伝えないが、「いってらっしゃい。」と言う父の声に送られて、今日も頑張ろう!!気持ちを引き締めて、校門をくぐる。さあ、一日の始まりだ。

母のお弁当

大西中学校　三年　藤川（ふじかわ）　真帆（まほ）

私の母は、弟が小学校に上がってから約六年間、毎朝五時に起きて弟のお弁当を作っている。弟はアレルギーがあり、給食が食べれない。だから毎日、母の栄養満点で愛情のこもったお弁当を弟は食べている。私はそんな弟が羨ましかった。

ある日、母が今日作ったお弁当を写真に収めていた。私が「何で撮っているの？」と尋ねた。すると母は、「毎日写真に収めて、料理の内容ができるだけ被らないようにするためだよ。」と言っていた。そう思えば、毎朝お弁当の余りを食べているけれど、毎日違うメニューだった。しかもサラダは毎回味が違う。カレー味だったり、チーズ味だったり。そんな母のお弁当は、工夫が沢山されていて私の毎朝の楽しみだった。私へのお弁当ではないけれど、なんだか愛情と温もりを感じた。

私は来年、新しい道へと進んで行く。不安や困難が沢山あるだろう。そんな時に、母のお弁当を食べ、心も体も成長していきたい。

旅立った姉

大西中学校　三年　田中（たなか）　礼菜（れいな）

私は三姉妹の末っ子である。一番上の姉は、今年四月から一人暮らしを始めた。大阪の専門学校に入学したためだ。荷運びは全て車で行った。最終日には次女と私も車に乗り込み、旅行も兼ねて、家族全員で出発した。全員の荷物と引っ越し道具のせいで身動きも取れないような状態だった。

三日間の大阪を十分に満喫し、帰る支度が整った。この帰りの車に姉は乗らない。強くハイタッチをした。一人ポツンと取り残され、両手を振って見送る姉の姿が、私には小さく見えた。帰りの車内はとても広々としていた。

それからの日々、「ここに置いとる物片付けて！。」「はよお風呂入り！。」なんて言われることもなくなった。ただ、私の寝る時間も遅くなってしまった。家族で唯一テレビっ子であった姉。テレビの前を占領し、ケラケラ大声で笑う姿はなく、テレビの画面は真っ暗だ。最近では、母のスマホから姉の声が毎日のように聞こえてくるようになった。

しっぱい

亀岡小学校　一年　白石（しらいし）　剛琉（たける）

ぼくは、ちいさいころ、しっぱいするのがいやだった。だから、いろいろなことをやってみなくなっていた。

そしたらおかあさんが、
「しっぱいしていいのよ。しっぱいしながらじょうずになるのよ。おとうさんもおかあさんもしっぱいするよ。」
とおしえてくれた。
「おとうさんが。」
とぼくは、おどろいた。

それからすこしして、おかあさんがみちをまちがえるしっぱいをした。
「おかあさん、しっぱいした。」
とあせりながら、ぼくにいった。ぼくは、おかあさんのせなかをなでながら、
「だいじょうぶだよ。もどったらいいからね。」
といった。おかあさんが、
「そうだね。」
とにっこりした。

私の家

亀岡小学校　四年　長野（ながの）　衣杜（いと）

夏休みの朝、目がさめると私の家では、
「ガッチャン。ガガガガガガ。」
と音がずっとなっています。

私の家は、ししゅうやさんです。ししゅうやさんは、Tシャツやタオルにかわいい文字やカッコいいイラストを糸で入れていきます。私の家のししゅうやさんは、ひいおじいちゃんがはじめました。それから、おじいちゃんがついだそうです。おばちゃんも手伝っていて、小さいときの私は、よく工場であそんでいました。そしていまは、お母さんがしています。おじいちゃんにとってたいせつな工場だったので、朝から夜までお仕事をがんばっています。おばも、たくさん手伝ってくれています。私は、しょう来、農家さんになりたいのだけれど、ししゅうやさんのこともきになります。

お父さんにそうだんしました。お父さんは、二つともしたらいいんじゃないといいました。たいへんそうだけど、二つのことができるようにがんばりたいです。

私の大好きなひいばあちゃん

亀岡小学校　五年　菅（かん）　里緒（りお）

私のひいおばあちゃんは、九十四才です。毎日新聞を読んだり、洗たくをしたり、必ず日記も書きます。しゅみは手芸で、ミシンを使ったり、毛糸でタワシもあみます。

「手足が思うように動かん。しんどいわい。」

とも言っているけれど、まだまだ元気なひいばあちゃんです。

私は、ひいばあちゃんの部屋に行くのが大好きです。行くと、うれしそうな顔をして、

「よぉ来たね。里緒がおらんとさみしいわい。これあげる。いつもがんばっとるね。」

と言ってくれます。ひいばあちゃんの顔を見るとホッとします。学校で楽しかったこと、がんばったこと、つらかったことも話します。お母さんにおこられた時は、話をだまってうなずきながら聞いてくれます。すると、心が落ち着き、気分がスッキリします。

私の大好きなひいばあちゃん、これからもずっとずっと長生きしてね。いっぱいおしゃべりしようね。いつも、ありがとう。

無事に帰ってこれますように

大西小学校　六年　檜垣（ひがき）　陽翔（はると）

ぼくのお母さんは、家族が家を出る時にはいつも玄関や庭まで出て、みんなを送りだします。それは、お母さんのお母さんでもあるおばあちゃんからやっていた事だそうです。

毎日、ぼくが笑顔の時もきげんが悪い時も送りだしてくれます。なぜそうしてくれているんだろうと聞いてみました。お母さんは、「家族が無事に家に帰ってこられますようにというおまじない、なるべくどんな時も笑顔でおくりだせるように心がけているよ」と話してくれました。

この間も地震があった時、お母さんとお兄ちゃんは家に一緒にいて安心したけど、もし外出している時や学校などの時だったらと思うとこわくなります。無事に家に帰ることが出来るという事もあたり前のことではなく、感謝しなければならない事だとお母さんが教えてくれました。毎日、元気にすごせたり、家族と一緒にいれる事も幸せな事なんだと思いました。

弟がおとまりほいくの時

清水小学校　二年　落合（おちあい）　幸菜（ゆきな）

今日は、弟がおとまりほいくでした。その日の夜、わたしはさびしくてなきました。なぜわたしがさびしくてないたかというと、いつもいるはずの弟がいなかったからです。いつもなら一しょにいる時間なのに、弟がいないだけで心にポッカリとあながあいた気もちになりました。

次の日朝、弟は元気にかえってきました。

わたしは、

「たのしかった?」

と、きいてみました。するとえがおで

「うん、たのしかったよ。」

と、一つお兄さんになったようなおかおでこたえてくれました。

ふだん、けんかをよくする弟だけど、やっぱりまだまだ一しょにいたいなあと思いました。それと同じに、あたり前にすごす毎日が幸せなんだとじっかんしました。

元気にかえってきてくれてよかった。また一しょにあそぼうね。

ぼくとばあちゃん

近見小学校　四年　大野（おおの）　颯晴（はやせ）

ぼくはお父さんお母さんが大すきです。それに負けないぐらいばあちゃんのことも大すきです。ばあちゃんもいつも、

「はやせくん大すきよー。」

と言ってぎゅっとしてくれます。ばあちゃんにぎゅっとされると、ほんわかした気持ちになって、なんだか安心します。

ぼくは、お姉ちゃんや妹とよくけんかをします。ぼくは悪くないのに、お母さんにおこられたりしていやな気持ちになります。そんな時は、ばあちゃんの家ににげます。ばあちゃんは、いつもやさしく話を聞いてくれます。ただ話を聞いてもらっただけなのに、いつの間にかイライラした気持ちがどこかに行ってしまいます。ばあちゃんには、何かふしぎな力があるみたいです。

ぼくは、まだまだばあちゃんとぎゅっとしたり、色んな話をしたいので、これからも元気なばあちゃんでいてほしいです。

私の家族のきずな

乃万小学校　四年　崎田　巴菜

私は五人家族です。家族みんなで一緒にいる時間が大好きです。けんかもするけど一緒に遊んでくれる妹達が好き。外で一生けん命お仕事をしていて、休みの時は思いっきり遊んでくれるお父さんが好き。家事をして私達の面倒を見てくれるお母さんが好き。みんな大好きです。

ある日突然妹が入院した。お母さんが妹の入院準備をしている間に私はお父さんと二才の妹と一緒におばあちゃん家へ行った。すぐに退院すると思ったけど、なかなか帰ってこなくてお母さんと妹に会えなくてさびしかった。早く会いたいなと思った。

一週間が経ってやっと退院して久しぶりにお母さんと妹に会えてすごく嬉しかった。思わずぎゅーっと抱きしめた。家族五人そろっている時が一番嬉しいし、これからも病気をせずに家族みんな一緒にいられますように。

家族のためにがまん

乃万小学校　六年　横山　千尋

私には兄と姉がいる。兄は大学受験、姉は高校受験だった。特に兄の大学受験は人生が決まるくらいの大切なもので、お金がかかる。五年生だった私は様々なことをがまんしなくてはならなかった。

私はバレーボールを習っていて、受験シーズンにチームの遠征があった。私以外はみんな行くと言っていた。なので母に相談してみた。すると、

「今はお金の余裕も心の余裕もない。」

と言われ、私は一人だけ行けないのがいやで母に文句を言った。その夜私は一人で考え、母に文句を言ったことを後かいした。毎日仕事に行く両親、そして受験のために一生けん命に勉強する兄と姉。今はその家族のためにも私はがまんしなくてはならない。

そして兄も姉も合格した日、母は言った。

「今までがまんさせてごめんね。ありがとう。」

双子の姉

桜井小学校　五年　一色　彩花

私には双子の姉がいる。だから、産まれた時からお誕生日ケーキは半分だ。ちょっと損した気分だ。母に怒られる時も時々間違われて一緒に怒られる。大分、損している。

そんな私に母は、

「双子っていいね。」

って言う。私はいつも『そんな事なんかないよ。』って心の中で言い返す。

五年生になってから、友達とけんかすることがふえた。しょんぼりしながら帰る私のとなりには双子の姉がいた。帰ったら一緒に勉強をする。苦手な教科がちがうから宿題は教え合いっこ。ご飯も一緒に食べて、寝る時も一緒。全然さみしいと思ったことない。

姉は、私にとって友達でライバルで時々先生だ。双子って、すっごくいい。思い出せば誕生日プレゼントはいつも二つ。私が思っていたよりラッキーはいっぱいあった。私にそっくりで私じゃない姉が私は大好きだ。

「ハッピーバースデー、さや、あや。」

弟の誕生

桜井小学校　六年　髙橋　莉琉

わたしが小学校三年生の時に、一番下の弟が生まれ家族がふえました。このとき、新型コロナウイルスが流行していたため、病院に入ることができず、家にもどってくるまで会えませんでした。病院から家に帰ってきた日、初めて弟の顔を見たときは、嬉しかったです。また楽しみにしていた名前も初めて両親から教えてもらいました。この時の嬉しさは今でもはっきりと覚えています。すぐ下の弟が生まれた時は、私は四才だったため、あまり覚えていません。だから、一番下の弟が生まれたときは、小さくかわいくて、ずっと見ていてもあきることなく一つ一つのしぐさが気になり、泣き声もかわいかったです。弟がこの家に生まれてきてくれたことがとても嬉しかったです。

今は少し大きくなり生意気なところもあるけど、あの初めて家に帰ってきて会ったときのことを思い出しながら、弟のことを大切に守っていきたいと思います。

曾祖母の『教え』

立花中学校　二年　山口（やまぐち）　凛音（りお）

私には、今年の八月に九十八歳になった曾祖母がいます。戦争の時代を経験してきた曾祖母は、物を大切にします。例えば、着付けに使っていた、もう使わなくなった腰ひもをつなぎあわせて、洗濯物を干しています。戦争の時代は、食べる物も少なかったから、自分の家で育てたにわとりに卵を産ませて食べたり、イモのツルを食べたりもしていたみたいです。

今の時代お金を出せば大体の物は手に入る時代です。曾祖母が

「今の時代の子供達は贅沢やね。」

と、言っていたことがあります。確かに、ほしい物はすぐに買えるしごはんだって残すこともあります。改めて言葉の意味を考えると深くて、物も大切にしないといけないな、と思いました。曾祖母から、沢山の話しを聞いてきて、今の時代だからこそ曾祖母の『教え』を大切にしていきたいと思いました。

姉妹の存在

菊間中学校　二年　成松（なりまつ）　心羽（このは）

私には二さい上のお姉ちゃんと、七さい下の妹がいます。姉は優しいときも腹が立つときもあるけど、部活のことをおしえてくれたり、心配などもしてくれる良いお姉ちゃんです。妹はおもしろくて、うるさくて、かわいくて、腹も立つけど、優しいしがんばり屋さんの良い妹です。

そんな二人のまん中にうまれた私はお姉ちゃんでもあり、妹でもあります。立場が分からなくなるときもあるけど、二人のおかげでいつも楽しく過ごすことができています。

誰かがどこかにでかけると、他の二人の物もかって帰ります。そしてしっかり渡し、大切に使います。

いつも頭の中に入っているのです。

けんかもよくするけど仲直り。つらいときも三人でのりこえる。うれしいときは共有する。とても大切な存在です。

これからもよろしくね。

私がお姉ちゃん!?

今治明徳中学校　一年　小林（こばやし）　かのん

私、私はおどろいて父を呼んだ。

「パパ!!自転車置場で猫が死んどる!!」

私の家の自転車置場は野良猫一家が占領中。

その中の一匹の子猫がぐったりと倒れていた。

「大丈夫?今から助けるね。」

と父は動物病院に連れて行った。次の日、同じ場所にもう一匹弱々しく座っていた。私は、二匹を「かれえ」と「るう」と名付け、面倒を見ることにした。二匹の鋭い目はまん丸になり、ジーッと私を見つめるようになった。

大学で離れて生活している姉にラインした。「弟と姉ができた!!パパもよく病院行きよる。」動揺して誤字だらけの返信がおもしろかった。

お盆で帰って来た姉は、メロメロで二匹が何をしても怒らない。私にはすぐ怒るのに。

「かれえ、るう、そこガリガリしちゃダメ!!」

十二年間妹だった私が、お姉ちゃんになった。

僕のアイボウ

今治明徳中学校　一年　玉井（たまい）　良昌（よしあき）

僕は家族がいるということはとてもありがたいことだと思う。なぜなら、自分がしんどいときに相談にのってくれたり勉強や運動を応援してくれたりするからだ。

特に僕がいてくれて助かるのは弟だ。なぜなら弟は僕の話を一番よく聞いてくれて一緒に悩んでくれるからだ。僕にとってその行動は一番ありがたいと思っている。弟が僕にいつも言っている言葉がある。それは「大丈夫」だ。その言葉をきくだけで落ちついて行動ができる。いつもありがとう。

僕は家族に愛されていると思う。衣食住があったり学校に行けたり、家族が頑張ってくれているおかげで僕が過ごせていると思うと感謝が止まらない。

僕はまだ家族を幸せにできていない。「育ててきて良かった」と思ってもらえるようにこれからも努力をし続けていきたい。

響く一言

今治明徳中学校　三年　渡部（わたなべ）　瑛大（えいだい）

ひいおばあちゃんのお葬式の日。初めてだったこともあり、亡くなったという実感が湧かぬまま火葬場へと向かった。

静かで重い空気の中でも式は淡々と進み、骨上げまで終わった。立って待っている間、涙をこらえようとうつむくことしかできなかった。周りのすすり泣く声が聞こえ、その気持ちを考える度にさらに苦しくなっていた。そんな時、となりで立っていたおばあちゃんが涙を拭いながら話しかけてきた。

「親を悲しませたらいかんよ。」

おばあちゃんとひいおばあちゃんの背景に何があったかはわからなかった。しかし、その言葉はとてつもなく重く感じた。だから、その言葉に返すことができず、またただ黙ってうつむき続けることしかできなかった。

今、僕は中学生で親に迷惑をかけてしまっていると思う。しかし、親を悲しませてしまうことは絶対にしてはいけない、とその瞬間から心に決めている。

母は偉大だ

今治明徳中学校　三年　近藤（こんどう）　沙紀（さき）

私は五人家族です。しかし家事などの家の仕事はすべて母に任せていました。

先日母が体調を崩し寝込んでいました。無意識に家事は母がするという偏見があったため何をすれば良いかパニックになっていました。家族全員で家事を分担しました。しかし分担してやったのにかかわらず一日中何かの仕事があることを知りました。その時母の苦労を知り、母は偉大だと感じました。毎日私たちが健康で過ごせているのは母のおかげです。母に感謝の気持ちを持って過ごせていなかった過去に腹が立つほどです。また、家族全員で母にこれからはたくさんお手伝いをすると誓いました。

今では、家族みんな一日に一つはお手伝いをすることが日課になっています。これからも家族全員に感謝の気持ちを正直に伝え助け合っていきたいです。

感謝

近見中学校　二年　福羅（ふくら）　瑛一（えいいち）

僕は今、松山のクラブチームで野球をしている。毎週土、日、祝日と通っている。そして、連休や長い休みの期間に入ると、平日練習や遠征で県外に行くこともある。特に遠征では、選手はバスで移動するのだが、保護者、つまり僕達のお母さんは、自分の車でついて来なければならない。さらに片道だけで何時間もかかり到着してもアナウンスや、選手達のサポートがある。お父さん達も審判などで休めない。

そんなことを、「しんどい」、「やりなくない」などと、一言も言わずにしてくれる。その親のサポートがあるからこそ選手達はプレーできるということを忘れてはいけない。もちろん、野球だけではなくどのスポーツも同じだ。

僕は、これからも野球を続けるつもりでいる。そして、大きな大会がいくつかある。その大会全て全国へ行って親への感謝の気持ちをつたえていきたい。

家族での時間

近見中学校　一年　壷内（つぼうち）　咲奈（さな）

ここ最近、家族でお出かけが変わった。昔は週末どこかに家族でお出かけに行っていた。私が中学生になって、土日のどっちかには部活があるのと弟の野球があるから…。家族での時間が変わった。お父さんは、弟の野球に行っているから家族ではあまり過ごせない。私の家はアウトドアだ。今年のゴールデンウィークひさしぶりに旅行に行った。淡路島でキャンプをした。特にキャンプはひさしぶりでとてもわくわくした。弟は、ひさしぶりのキャンプにはりきってテントを立てるのを手伝っていた。何もかもがひさしぶりで楽しかった。私は、この旅行を通して感じた。家族で旅行できるのはこんなに幸せだと。もう私は中学生だ。どんどん大きくなるにつれ家族との時間が変わっていくと。私は、家族が大好きだ。どんどん一緒に過ごす時間が少なくなってきているから一日一日大切に、楽しく過ごそうと思う。

母の日

大西中学校　三年　香月　瞳伶

「母の日、何渡す？」
友達から送られてきたメッセージを見て、今週に母の日があることに気づいた。
「特に何も」
私がそう返したのは、中学生になってから家族とあまり話さなくなったからだ。それに、日常の小さなけんかも多くなった。
母の日の前日、友達と一緒に買い物に行くと、お店の中には母の日と書かれたのぼりや花で賑わっていた。そのとき、ふと小さい時の母の日を思い出した。小さいカーネーションとハンカチを渡すとありがとうと言って写真まで撮って喜んでいた。あの時の母と私の笑顔を思い出すと、私は花屋へと走った。
夕食を食べたあと母に小さいカーネーションとハンカチを渡した。少し驚いた顔をして、ありがとうと言って写真を撮っていた。話すことは少ないが母にはいつも支えられている。
「いつもありがとう。」
私と母は笑った。あの頃と同じ笑顔で。

家族の要おばあちゃん

玉川中学校　一年　浮穴　優之介

おばあちゃんは、掃除、洗濯、家事全てをこなすまさにパーフェクト人間である。
毎朝五時に起きて、大好きな卵焼きをいっぱい作ってくれる。洗濯も、朝ごはんを食べ終わってから洗濯機の中身をパンパン干している。そんなときもいつも笑顔でいてくれる。
でも最近そんな笑顔が消えかかっている気がする。白内障のおじいちゃんの手術の送迎、付き添い、看病でとても疲れている。それなのに卵焼きを作ってくれているおばあちゃんの体が心配になっている。でも、おばあちゃんはいつも
「大丈夫だよ。」と、いつも嘘をついて最後に体を壊す。もうおばあちゃんには無理をしてほしくない。
これからは、家事を一緒に手伝うよ。おばあちゃん。

私の大好きな祖父母

玉川中学校　一年　武田　乃愛

私の母方の祖父母は、九州と本州を結ぶ関門海峡の近くの山口県下関市に住んでいます。お母さんが里帰り出産をしたので、私はそこで生まれました。生まれたときから祖父母は、私達兄弟をとてもかわいがってくれていました。
祖母は、裁縫が得意で、よく私に服や小物、お人形の服も作ってくれました。今ではもう身長も同じくらいになってきて、目線も同じくらいになってうれしいです。私は、とても優しくて、明るい笑顔の祖母が大好きです。
祖父は、とても背が高く、小さいときは、よく肩車をしてくれていました。そのときに見える景色が、大好きでした。抱きしめてくれた時は、安心してほっとします。祖父の大きな声の笑い声に私もつられて笑ってしまいます。
私は、祖父母の優しい笑顔が本当に大好きです。ずっと健康で笑っていてほしいです。

家族の「おかえり」

玉川中学校　一年　鴨川　瑞歩

僕は、中学生になって帰るのが遅くなった。部活動が始まったからだ。授業が終わったら、部活動が始まる。僕は吹奏楽部だ。部活動は四時から始まる。そして六時半に部活動が終わる。僕はゆっくりと帰っていく。バッグは重いし、部活で疲れて、もうへとへとだ。
家についた時には「やっとついたー」と思う。そして玄関を開けると、家族から温かい「おかえりー」が聞こえてくる。その瞬間、僕の疲れは一気に飛んでいく。魔法のようだ。「おかえりー」の一言で、自分の中の気分が一瞬で変わる。家族には、とても感謝している。いつも、「おかえりー」と言ってくれてありがとう。
僕はこんな温かい家族が大好きだ。本当にいつもありがとう。

令和６年度

募集要項

応募資格　今治市の小中学生、１校３～ 10点

募集要領　「家族のきずな」に関する内容のもの
（例）家族の思い出、おじいちゃん・おばあちゃんの思い出、家族のありがたさ、家族の愛を感じたとき、忘れない家族の一言など、家族のきずなの大切さを感じたことなど……。（字数）400字以内

応募期間　令和６年８月１日㈭～９月９日㈪

賞
①特別賞　５点　賞状と副賞
②優秀賞　応募総数の10％
　優良賞　応募総数の20％

発表・表彰
①令和６年11月27日㈬
　18:30より特別賞５点の発表と表彰式。
②優秀賞・優良賞は学校を通じて伝達。

そ の 他
①応募作品は未発表で日本語のものに限ります。
②特別賞・入賞作品に関する著作権は主催者に帰属します。
③特別賞・入賞の作品は主催者発行の「エッセイ集」にて紹介します。
④作品のプライバシー、個人情報に関して主催者は一切責任を負いません。
⑤公益財団法人モラロジー道徳教育財団「心をつなぐエッセイ募集事業」に基づき実施するものです。

「家族のきずな」エッセイ集

協賛企業

第一印刷株式会社